

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講期間	担当講師
専門基礎分野	生活とリハビリテーション	1	30	2年次	4月	田中正則
授業概要 リハビリテーションを人間としての権利や名誉の回復の視点から理解させ、障害を抱えながらその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践について理解させることをねらいとする。また、介護予防につながるリハビリテーションの実践についても理解させる内容とする。						
到達目標 1. リハビリテーションの歴史と理念について理解できる。 2. 身体機能維持・回復を促すリハビリテーションについて理解できる。 3. 日常生活の再獲得を支援する援助について理解できる。						
使用教材 テキスト QOLを高めるリハビリテーション看護：医歯薬出版株式会社 参考文献等 その他						
評価 筆記試験 授業計画						
時間・回	授業内容					方法
21時間・11回	1. リハビリテーションとは 1) リハビリテーション医学の歴史と理念 (1) リハビリテーション医学の歴史 2) 健康に関する問題の国際分類 (WHO の国際分類) (1) 障害分類の動向 (2) 生活機能分類 (ICF) 3) 障害のレベルとその基本的アプローチ (1) 障害の用語 (2) 障害の3層分類と相互関係 (3) 3つの障害への基本的アプローチ (4) リハビリテーションの流れ 2. 機能の維持・回復のための訓練 1) 関節可動域の測定、訓練 【実技】 2) 座位体勢訓練 3) 筋力強化訓練 筋力評価 (MMT) 4) 廃用症候群予防のための自動・他動運動 【実技】 3. セルフケアを高める援助 1) ADLとセルフケア 2) 日常生活行動の自立を支える条件 3) 日常生活動作再獲得過程の理論と基盤 4) 日常生活行動の再獲得を促していくプロセス 4. 生活を取り戻していくための援助 1) 対象の機能に合わせた移動と移乗の援助 (1) 歩行器を用いた歩行・移動の援助 (2) 松葉杖を用いた歩行の援助 【実技】 (3) 麻痺のある対象の体位変換 【実技】 (4) 臥床している片麻痺のある対象の移動・移乗援助 (ベッドから車いすへ、車いすでの移送) 【実技】 2) 作業療法について					講義 実技

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講期間	担当講師
専門基礎分野	生活とリハビリテーション	1	30	2年次	4月	田中正則
時間・回数	授業内容					方法
	<p>5.疾患別リハビリテーション看護</p> <p>1)脳卒中のリハビリテーション (三角巾の使い方)</p> <p>2)大腿骨頸部骨折のリハビリテーション</p> <p>3)循環器疾患 (心筋梗塞) のリハビリテーション 心臓リハビリテーション</p> <p>4)嚥下障害に対するリハビリテーション (1)摂食・嚥下状態のアセスメント (2)摂食・嚥下訓練</p>					
6時間・3回	<p>6.視覚障害に対するリハビリテーション</p> <p>1)視覚障害者リハビリテーションの目標</p> <p>2)障害受容と自立に向けた支援</p> <p>3)視覚障害者リハビリテーションの実際</p> <p>7.聴覚障害に対するリハビリテーション</p> <p>1)リハビリテーションの実際</p> <p>2)聴覚口話法・キュードスピーチ・トータルコミュニケーション・聴覚単感覚法・手話</p> <p>8.コミュニケーション自立のためのリハビリテーション</p> <p>1)言語障害者とのコミュニケーション</p> <p>2)失語症患者のリハビリテーション看護</p>					講義
2時間・1回	<p>9.リハビリテーション看護の概念</p> <p>1)日本におけるリハビリテーション看護の歴史</p> <p>2)リハビリテーション看護とは</p> <p>3)リハビリテーション看護の対象</p> <p>4)リハビリテーション活動における看護師の役割</p>					講義
1時間・1回	筆記試験 45分					
<p>備考</p> <p>最後の1回はこれまでの学習を通して、リハビリテーションにおける看護師の役割について述べるができるように学習する</p>						